

# 第58回農林水産祭

農林水産祭は、国民の皆さんに農林水産業と食に対する認識を深めていただくために、農林水産省と公益財団法人日本農林漁業振興会が共催して、昭和37年から実施しており、今年で58回目となります。

農林水産祭では、過去1年間の農林水産祭参加表彰行事において農林水産大臣賞を受賞された方の中から、天皇杯、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞が選ばれます。

林産部門では60の出品財の書類審査及び現地審査を経て、天皇杯に谷口洋一郎氏、希子氏まれこ（夫婦での受賞）かわかみぐんしべちやちやう（北海道川上郡標茶町）、内閣総理大臣賞に芳賀隆氏、幸子氏さちこ（夫婦での受賞）しもへいぐんやまだまち（岩手県下閉伊郡山田町）、日本農林漁業振興会会長賞に須藤義朗氏よしろう（栃木県大田原市）が選出されました。

## 天皇杯

谷口 洋一郎氏・希子氏（北海道川上郡標茶町）

### ～厳しい気候条件下で地元の森を育てる夢に挑戦を続ける苗木生産者～

ご夫婦での受賞となった谷口洋一郎氏・希子氏は、標茶町と弟子屈町てしかがちやうに苗畑を有し、カラマツ、トドマツを中心として年間約70万本の規模で苗木生産をしており、釧路管内の生産量の約7割を占めています。

気候条件が異なる各々の苗畑で樹種、季節に合わせて苗を移動させて床替えすることや、床替え回数を1回から2回へ増やして発根を促すことなどにより手間をかけて生産した苗木は、活着率が良く安定した品質で購入者からの評判も良好です。

また、成長がよく新たな造林樹種として期待されるクリーンラーチ（グイマツぐいまつ精英樹「中標津5号」とカラマツ精英樹の交配品種）の苗木生産を早期に行い、平成30年度からは成長に優れた種苗の生産に取り組む民間の特定増殖事業者として認定を受け、クリーンラーチの採種園を造成しています。

「地元の種を地元で植えて、地元の森を育てる」という夢のもと、手間をかけて良質な苗木を生産しており、多くの森林で主伐・再造林の時期を迎える中、クリーンラーチ採種園への挑戦など更なる発展が期待できます。



## 内閣総理大臣賞

芳賀 隆氏・幸子氏（岩手県下閉伊郡山田町）

### ～震災を乗り越え安全・高品質な乾しいたけ作り～

ご夫婦で受賞となった芳賀隆氏・幸子氏は地域を代表する原木しいたけ生産者である父の下で研鑽を積み、平成25年から経営を譲り受けました。東京電力福島第一原子力発電所事故の影響により、ほだ木9千本を廃棄することになりましたが、国及び県の定めたガイドライン等に基づき栽培管理を徹底し、安全・安心な乾しいたけを生産しています。

露地栽培とハウス栽培を組み合わせた気象条件に左右されにくい独自の栽培技術を確認しており、袋がけを工夫することにより白く亀裂のはっきりとした花柄と身の締まった高品質な乾しいたけ生産を行っています。

さらに、風評被害等によりしいたけ価格が下落し、多くの販路が失われましたが、道の駅やデパート、各地の試食・販売会に出向き、消費者のニーズに対応した商品の出荷などにより需要の拡大に努め、生産量の回復と経営力の向上に取り組んでおり、しいたけ産地の再生や地域の活性化のモデルとして更なる活躍が期待できます。



～伝統を守り、次世代の担い手を育てる林業家～

須藤氏は、約200年前の江戸時代後期に林業経営を始めた先祖から数えて5代目にあたり、所有山林の集約化や路網整備を先祖代々積極的に行ってきたことで効率的な経営基盤が築かれています。木材価格が低迷する中、家業である製茶業等との複合経営を行うことで、収益の安定性を確保しています。

所有山林のうち、林齢80年以上の林分は約9haあり、これらの林分から注文材として長尺材や大径材の出荷を行っています。さらに、約20年前から葉枯らし材に取り組んでいます。葉枯らしとは、伐採後、枝葉がついたまま林内乾燥することで、発色が良くなり、材の付加価値を高めるものです。こうした高付加価値材の生産は、優良材と評価される「八溝材」の伝統ある特徴をアピールし、ブランド力を向上させています。

また、平成19年から平成29年まで大田原市森林組合の代表理事組合長を務め、大型の高性能林業機械の導入による高効率作業システムの構築や森林施業の集約化、人材育成に力を入れるなど、森林組合の経営改善に尽力されました。こうした功績とともに、現在も林業研究グループ活動に取り組み、地元高校生や小学生に対する体験イベントを継続的に実施しており、次世代を育てる地域林業の指導者として活躍しています。



11月1日(金)、2日(土)  
「第58回農林水産祭・  
実りのフェスティバル」  
実りのフェスティバル

毎年恒例の農林水産祭「実りのフェスティバル」が開催されました(東京都豊島区)。

林野庁ブースでは「木づかい運動でウッド・チェンジ！〜使ってみよう！木を見直そう！〜」と題し、木を使うことの意義や森林のサイクルなどについてパネルで紹介し、国産材を使った日用品や木のおもちゃなどを展示しました。ブースを訪れた親子連れをはじめ多くの方々が、様々な木製品の手触りや木の香りを楽しむ姿が見られました。特に、樹のブックカバーや和柄のコースターなどに多くの方が興味を示されていました。

会場内は、各都道府県や農林水産関係団体のコーナーで郷土特産物の展示や販売等が行われ、終日多くの方々が賑わっていました。

